

令和7年度 七尾市立東湊小学校 学校だより 令和7年4月11日



東湊っ子

No.1

TEL: 52-3149 FAX: 52-1200

E-mail: minatosho@edu.city.nanao.ishikawa.jp 文責: 基村

ご入学・ご進級おめでとうございます

校庭の桜が咲き始めた4月7日、22名の新1年生を迎え、令和7年度の東湊小学校が始まりました。お子様のご入学・ご進級、誠におめでとうございます。全校児童162名で気持ちも新たにスタートしました。

さて始業式で、私は新年度のスタートにあたり、2年生から6年生に、次の4つことを大事にしてほしいと話をしました。

- 1つ目は「返事やあいさつをしっかりとすること」、
- 2つ目は「お友達を大切にすること」、
- 3つ目は「お話をしっかりと聞くこと」、
- 4つ目は「命を大切にすること」です。



そして、東湊っ子のめざす姿である「自ら考え、自ら動く」を示しながら、「このあとの入学式で、校長先生は1年生に同じことを話します。その話を聞きながら、皆さんはどのような行動をすれば1年生のよいお手本になれるかを、一人一人が自分で考え、これから行動して行ってほしいと話しました。

グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、21世紀を生きる子どもたちに必要な力は「自ら問題を発見する力」や「自分の頭で考え行動していく力」であると言われています。一方、時代が変わっても決して見失ってはいけない大切な価値や学びもあります。そのような学校教育における「不易」と「流行」をしっかりと見極めながら、本校児童の健やかな成長を第一に願い、学校教育目標（次頁学校経営グランドデザイン参照）の実現に向け、全職員で誠心誠意取り組んでまいります。

本年度も本校教育活動への保護者・地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



東 湊 小 学 校 EDUCATIONAL GOALS

東湊っ子のすがた

『自ら考え、自ら動く東湊っ子』

令和7年度 学校教育目標

主体的に考え、行動しながら、
課題を解決していこうとする児童の育成

今年度の重点

- 【重点①】安全安心な学校
- 【重点②】学びの充実
- 【重点③】働き方改革とチーム学校力

めざす児童像

- ◇＜自ら考える児童＞ 課題解決に向け、主体的に考えて努力する児童
- ◇＜自ら動く児童＞ 自分たちの学校や学級をよりよくしていこうと工夫し、行動する児童

めざす教師像

- ◇指導者としての言動に責任をもち、保護者や地域の信頼に応える教師
- ◇自らの指導法を見つめ直し、授業力の向上をめざして、努力し続ける教師
- ◇児童の情報共有を密にしながら、一人一人の児童に寄り添う教師

子どもたちのために、東湊小学校が実践する17の取組

1

自他を大切にす
る人権教育の推
進

2

定期的な心と体
のアンケートと
SCの活用

3

危機管理マニユ
アルの見直しと危機
管理意識の向上

4

各種アンケート
や児童理解会議
によるいじめの
早期発見、早期
対応

5

情報を正しく安
全に利用してい
くための情報モ
ラル教育の推進

6

地域や家庭へ教
育活動の様子を
随時発信

7

授業における自
己選択、自己決定
の場づくり

8

個別最適な学び
と協働的な学び
の実現

9

1人1台端末を
効果的に活用し
た授業づくり

10

帯タイム等での
前学年の学び直
しを含めた基礎
学力の定着

11

ふるさと七尾S
D G s 教育の推
進

12

各種体験活動
を取り入れた本物
体験による学び

13

「G I G A 校内
研修」や「若プロ」
における短時間
で効果的な「ミニ
研修」の実施

14

ポイントを絞っ
た指導案検討と
短時間で実りあ
る事前研の実現

15

機能的かつ短時
間で効率的な会
議の運営

16

職員が役割と責
任を自覚し、職責
を完遂できる校
務運営

17

職員が専門性を伸
ばしながら、お互
いをカバーし合え
る職場づくり



(裏面に続きます)

令和7年度 職員紹介

新しいメンバーが入り、令和7年度がスタートしました。今年度も保護者の方々のご協力のもと、全教職員が力を合わせて教育活動に携わっていきます。今年度もよろしくお願いします。

学 年	担 任	児童数
1年1組	伊藤 真奈美	22
2年1組	西脇 智恵子	23
3年1組	大根 あゆみ	20
4年1組	池島 綾香	27
5年1組	出島 秀旺	27
6年1組	三宅 智久	19
6年2組	吉川 佑茉	18
わかくさ	山本 祐一	1
あおぞら	三浦 尚也	5
合 計		162

☆☆☆ 新任の教職員の紹介 ☆☆☆

基村俊成（宝達志水町立押水第一小学校より）
 吉川佑茉（七尾市立和倉小学校より）
 池島綾香（宝達志水町立宝達小学校より）
 大根あゆみ（七尾市立天神山小学校より）
 三浦尚也（能登町立小木中学校より）
 ロレーン（七尾市立小丸山小学校と兼務）
 池田弘子（宝達志水町立宝達中学校と兼務）
 井上一幸（中能登町立中能登中学校と兼務）

校 長	基村 俊成	支 援 員	澤多 久美子
教 頭	中村 教子	支 援 員	彗田 優子
級 外	三野 浩嗣	図書館司書	松田 紀子
級 外	朝倉 慈依	スクールサポートスタッフ	青木 優子
通級(にじいろ)	谷口 洋一	配 膳 員	吉野 貞夫
養護教諭	荒栄 穂波	A L T	ロレーン
事務職員	堀下 晴菜	スクールカウンセラー	池田 弘子
校 務 員	溝口 衛	拠点校指導員	井上 一幸

登校時交通安全指導 ありがとうございました

4月7日の新年度スタートから、保護者・地域の皆様には、「登校時交通安全指導」を行っていただきました。たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちは、大勢の保護者や地域の方に見守られているという思いを新たにし、通学路での安心と地域のあたたかさを改めて感じたものと思います。また、登校する児童にあたたかなあいさつやお声かけをしていただき、児童のあいさつがより一層活性化されたのではないかと思います。本当にありがとうございました。

さて、あいさつが大事であることは言うまでもないことですが、どうしてあいさつをすることが大事なのでしょう？ あいさつをすることが当たり前過ぎて、そのようなことを普段考えることはあまりないと思うのですが、以前ある講演で次のようなお話を聞きましたので紹介したいと思います。



この地球上には、およそ 6000 の言語があるとされています。そしてその 6000 の言語すべてに「あいさつ」の言葉があります。考えてみれば、これは不思議なことではありませんか？ その 6000 の言語を話す人々が別に相談して決めたわけでもないのに、どの言葉にも必ず「あいさつ」があります。つまり、言葉ができた昔から「あいさつ」が大事であるということ、人間は感じ取っていたということです。では「あいさつ」には、どんな意味があるのでしょうか？ 私の好きな詩にこんな言葉があります。

『朝がくると』

まど みちお

朝がくると とび起きて
ほくが作ったものでもない
水道で 顔をあらうと
ほくが作ったものでもない
洋服を きて
ほくが作ったものでもない
ごはんを むしゃむしゃたべる
それから ほくが作ったものでもない
本やノートも
ほくが作ったものでもない
ランドセルに つめて
せなかに しょって
さて ほくが作ったものでもない
靴を はくと
たったか たったか でかけていく
ほくが作ったものでもない
道路を
ほくが作ったものでもない
学校へと
ああ なんのために
いまに おとなになったら
ほくだって ほくだって
なにかを 作ることが
できるように なるために

人間は、一人で生きていくことはできません。必ずだれかと関わっています。「自分は一人だけで生きてみせる」と思ったとしても、詩の言葉にあるように、自分の身の周りにある食べ物や日用品などは、どれも誰かが作ってくれたからあるのであって、そこにはやはり関わりがあるのです。人間は、他人との関わりから逃れることはできないし、逆のことを言えば、他人との関わりが豊かになればなるほど、人生もより豊かになっていくのです。そして、その関わりを作ってくれるきっかけとなるものこそ、あいさつなのではないでしょうか。あいさつをする人の周りには、自然に人と響き合いやすい雰囲気が生まれ、空気がやわらかく変わっていきます。すると、人との意思の疎通が図りやすくなり、人を受け入れ、人からも受け入れられやすい素地、つまり関わりの素地ができていくのです。あいさつは、すればするほど自分を取り巻く空気がよい方向へと変わっていきます。その積み重ねが人生の展望を明るくさせ、生きることへの希望へとつながっていくと思うのです。

(以上講演内容の概略)

入学式・始業式の翌 8 日と 9 日に、登校時交通安全指導で、保護者・地域の方々が立って下さっている場所を少し回らせていただきました。

保護者・地域の方々の子どもたちへのあいさつ・声かけの様子がとてもあたたかく、まさに関わりの豊かな地域だなと感じました。今後とも、よろしくお願いします。

Let's call.

～親と子のなんでも電話相談室～

オアシスライン

対象：小中学生及び保護者(匿名の電話で構いません。秘密は守ります)



電話 (0767)52-0783

受付 13:00～16:00

(月曜～金曜)